KSO50　委員からの寄稿

鎌響コントラバス事始め

大内達郎　CB　　朝日ジュニアからの鎌響創立以来の団員

40周年のとき、「40年前のことをはっきり憶えていますよ」と言ったら「へえ、そろそろボケが始まったのではないか」と言われました。
ところで手元にある30周年記念プログラムの中にある年譜を見ながら私と団との関わりをたどってみます。

そもそも私のバスとの付き合いは、昭和３１年朝日ジュニアオーケストラが開設され、翌昭和32年に開設されたその鎌倉教室でひとまずバスを縦に構えたことに始まります。室長は福井孝一さんでした。そして昭和38年、福井さんを委員長として鎌響が再興されるというのでジュニアのメンバー何人かと一緒に参加しました。

大内さんの結婚式での福井孝一氏ご夫妻　左大内さん　（大内さん提供）

第 1 回定期演奏会　1963 年（昭和 38 年）

　バスは私一人、他にトラ 3 名の計 4 人。

この時トラを含めて弓で満足に弦を鳴らすこともできず、よくもシャーシャーと舞台へ上がったものだと、その強心臓にあきれたものでした。当時はこんな調子であっても、なんとかやれたのです。

第 2 回定期演奏会　1964 年（昭和 39 年 5 月）

　運命などを演奏し、トラは 4 人でした。このうち二人は芸大の現役でバリバリとものすごい音を出すのです。本物の弦、バスとはこのようなものかとびっくりしましたね。後に団長になられた伊澤龍作さんの楽器が使われましたが、ほとんど、未調整の楽器だったので、壊れるのではないかとひやひやしたものです。

停滞期　1965 年（昭和 40 年）

　山一証券がおかしくなったあの昭和 40 年前後の不況の影響か、この後、数年間は、団の活動が停滞しました。日常活動への集りが悪く、数名でシンフォニーの練習をしたり、さびしい時代がつづきました。

第一期黄金時代の到来　1972 年、1973 年（昭和 47 年、48 年）

　第一次オイルショックの後、1975 年頃からは、だんだんと団員の数が増え始めてきました。われわれ鎌響のコントラバスは、技量はともかく数の上ではそこいらの楽団に負けない、堂々たる交響楽団に育ってきました。楽団結成以来の第一期黄金時代を迎えたと言っていいでしょう。団員同士の交流も活発で、バス会と称する飲み会が盛んになりました。

20 周年　1982 年（昭和 57 年）

　第九を二日にわたって演奏。

　あっという間に 20 年が過ぎてしまったのですが、このときになっても、まだ第九はまともに弾けないんです。演奏会が終わって、これではいけないと、楽器を購入しました。なにしろ、借り物の楽器で間にあわせていたのですから、何をかいわんやです。楽器はクルマの値段と同じくらいでしたが、団のメンバーはポンポンと、高価な楽器を買っていましたね。時代はあのバブル期に差し掛かっていました。楽器屋さんもさぞ受けにいっていたことでしょう。

　合宿、練習、コンサートにもそれぞれいろんな思い出があります。とくに印象的だったのは、以下のようなことです。

○千葉岩井海岸の合宿では、南総里見八犬伝ゆかりのところに墓参したこと。
○城ケ島のユースホステルは、土足禁止なので往生したこと。
○東京駅のコンサートでバスのパート譜が紛失してしまいあわてたこと。
○御成小学校音楽室でのパート練習では、飲み物抜きで、故富永先生とコールド.ビーフのサンドウイッチをパクパク。

芸大のトラ　1997 年頃
　写真をたよりに、むかし、バリバリ弾いていたあの芸大のトラと、数十年ぶりに再会しました。彼を拙宅に招き一杯かわし、往時のことに話が弾みました。おそるおそるレッスンをお願いしましたら快諾されました。そして楽しいひとときを過ごすことができました。これも、楽団仲間であってのことです。

　自分が鎌響創立以来、今でもこうして楽しんでいられるのは、初代理事長福井孝一さんをはじめ、初代指揮者東清蔵さん、その時代時代の役員、世話役のみなさんのおかげです。心から御礼申し上げます。

2012 年 12 月

左から矢野さん CB、塚田さん Hrn、中村さん CB、宇多さん Vn、大内さん CB

ソリストのこと

トロンボーン　府川創作

槙君と菊地裕介さんに頼んだらどうか？50 周年委員会でコンチェルトの話が持ち上がった時、真っ先に頭にうかんだのがこの 2 人の名前です。前の団内誌「テュッティ」の中でも書きましたが、教え子の槙君のすばらしさは前々から感じていたところです。菊地さんについては大学時代のワグネルソサエティオーケストラの同学年でコンバス弾きの菊地一男さんの息子さんがすごいピアニストになっていることもよく知っていました。外国に留学していた裕介さんが帰国して最初に国内のオーケストラと共演したのがチャイコフスキーのピアノコンチェルトだということも知っていました。ただ、2 人ともいわゆる一般的なクラシック界での知名度はあまりないので、集客力的にはどうかな？という懸念はありました

槙　和馬　さん　槙さん提供

ところがふたをあけてみるとそんな心配はふきとんでしまいました。槙君は地元の子なので、地域の人たちへ宣伝がし易く、当日もたくさんのお客さんが来てくれました。また彼のピアノに対する素直な態度が鎌響のメンバーにもとても好評でうれしく思いました。

菊地さんの方は、ちょうど彼のリリースしたＣＤがちょっとマニアックではありますが、レコード芸術で推薦盤となり、ピアノ界ではちょっとした売れっ子となり、遠くのお客さんが少し来てくれたのもうれしいことでした。彼はピアノのみならず、編曲をしたり、演奏法の講義をしたりする才人でもあります。そしてとても飾らない人柄ですのですごく印象的でした。

50 周年記念の年の最後のマーラーとも合わせ、3 回のコンサートともほぼ芸術館が収納客数限界までうまったことはこのうえない幸せなことでした。この紙面をお借りしてお礼申し上げます。

中央に座っているのが府川さん Trb　その右は小原さんご夫妻 Vn と Vla
（長谷川さん Vn 提供）

少し前の府川さん　（KSO アーカイブ）

鎌響での出会いとさまざまな経験

長谷川眞優　Vn　KSO50 プログラム記事、広告を担当

長谷川さん　Vn

私が入団したのが、萩の第九演奏旅行があった年。そのころ、鎌倉に住んで数年、仕事も少し慣れてきたところで、オーケストラに入ろうかな…と悩んでいたころでした。見学に行った時には、偶然にも大学オケの先輩方が数名いてびっくり！離れた地でもつながっていることのうれしさを感じたのを覚えています。この偶然の出会いと、みなさんの温かさが、入団に踏み切るきっかけとなりました。

それから数年。また偶然にも 50 周年という素晴らしい節目を迎える年になり、また偶然にも 50 周年実行委員の一人として参加させていただく機会を得ることができました。数年しか経験していない私にとって、会議に出てくる懐かしい人の名前などは？？？ばかり。私にできることは記録ぐらいかしら…と、とにかく今の自分にできることをできるだけさせていただきました。今回実行委員を経験することでさまざまなことを知ることができました。

まずは、本当に見えるところ・見えないところで役員の皆さんがたくさん働いていること！仕事以外の趣味の活動ではありますが、仕事は膨大！で、それらをたくさんこなされているのだ、ということに改めて気づくことができました。本当に感謝です！

次に、地域の人たちに支えられているのだと感じたこと！プログラムの広告取りに行った際に、「聴きに行ったことあるよ～」「いつもお世話になっているからね…」と、いろいろな声を知ることができました。また、広告を取りに行くことで優しさと厳しさを知ることができました。音楽を通して、こんなことまで経験できたことは、とてもよかったと思います。

そして、鎌響の皆さんは鎌響が好きなんだと知ることができたこと！20~30 年もずっと所属している方から話を聞くと、昔から仲が良くて、今でもパートに限らず仲良く話したり打ち上げをしたりできる雰囲気があるのだなとよく感じます。仕事や家庭のことをしながら趣味を続けていくことは大変だとは思いますが、鎌響の皆さんが長く続いている方が多いのは、雰囲気がよいからなのだと改めて感じることができました。

さまざまな出会いと経験で、鎌響の活動について新たな発見ができた 1 年でした。これからも、自分にできることはなにか　―　考えつづけながら、活動していこうと思います。

鎌響 50 周年　プログラムについて

片山眞知子　　Cl のプロ、KSO50 プログラム立案を担当

♪♪ファミリーコンサート プログラム案♪♪

エルガー：威風堂々(何曲かあるようですが、一番有名な曲)約 7 分
グリーグ：ピアノ協奏曲(府川さんご推薦の槇和馬君をソリストに迎えて)30 分
(インスタントコンダクターは威風堂々から抜粋)
小室昌弘：ディズニーのメロディによる管弦楽入門
ラヴェル：「ダフニスとクロエ」第 2 組曲　約 16 分
ブリテン：青少年のための管弦楽入門　約 20 分

ショスタコーヴィチ：祝典序曲　約 6 分
モーツァルト：管楽器のための協奏交響曲　約 30 分
ハチャトリアン：バレエ組曲「ガイーヌ」　約 22 分
(インスタントコンダクターは「剣の舞」)

本番で上演したプログラム

エルガー：威風堂々　第 1 番
ショパン：ピアノ協奏曲　第 1 番(ピアノ独奏：槙　和馬)
ハチャトリアン：組曲「仮面舞踏会」
指揮：角　岳史

♪♪春(第 99 回)定期　プログラム案♪♪

ワーグナー：マイスタージンガー前奏曲　約 11 分
モーツァルト：管楽器(Ob,Cl,Fg,Hr)の協奏交響曲　約 30 分(オケの管は Fl、Hr)
ラヴェル：「ダフニスとクロエ」第 2 組曲
サン=サーンス：交響曲第 3 番「オルガンつき」　約 35 分
ドヴォルザーク：新世界　約 45 分

ワーグナー：マイスタージンガー前奏曲
矢代秋雄：ピアノ協奏曲　約 28 分
ベートーヴェン：交響曲第 7 番　約 38 分　(Trb がない)

ワーグナー：マイスタージンガー前奏曲
尾高尚忠：フルート協奏曲　約 20 分　(Trp、Fl がない)
{ベートーヴェン：田園　約 45 分
ドヴォルザーク：新世界

本番で上演したプログラム

ワーグナー：マイスタージンガー前奏曲
チャイコフスキー：ピアノ協奏曲(ピアノ独奏：菊地裕介)
ドヴォルザーク：新世界
指揮：山上純司
☞ピアノ独奏を鎌倉ゆかりのソリストにしたいと考え、川田健太郎、田代純子などの名前があがった。

♪♪秋(第 100 回)定期プログラム案♪♪

マーラー：交響曲第 2 番「復活」約 80 分
前プロが必要ならば、ベートーヴェンのプロメテウスの創造物(約 5 分)やフィデリオ序曲(約 7 分)
ショスタコーヴィチの祝典序曲(約 6 分)など。
または合唱つきで鎌倉市歌をフルコーラス

本番で上演したプログラム

ベートーヴェン：「レオノーレ」序曲　第 3 番
マーラー：交響曲第 2 番「復活」(ｿﾌﾟﾗﾉ独唱：山田英津子、ﾒｿﾞｿﾌﾟﾗﾉ独唱：木下泰子)
指揮：横島勝人
☞プレ・コンサートを行わず、鎌倉市歌の上演を合唱つきで 1,3 番を歌っていただいた。

㊟{でかこってある曲目は、この中よりいずれか…という意味です。

♪♪オペラは、いつ上演するというわけでなく、リクエストがあったので考えました。声楽の先生(横浜市民広間演奏会会長：高　丈二先生　ご専門はテノール)にもご相談にのっていただいた、ちゃんとしたものです。せっかくなので、このままそっくり、いつか取り上げてもよいかもしれません。

プッチーニ：「ラ・ボエーム」より　“私の名はミミ”　約 4 分半(ソプラノ)
“私が町を歩くとき”　約 2 分半(ソプラノ*)
「トスカ」より　“歌に生き、愛に生き”　約 2 分半(ソプラノ)
“星は輝く”　約 4 分　(テノール)
「蝶々夫人」より　“ある晴れた日に”　約 4 分半(ソプラノ)
マスカーニ：「カヴァレリアルスティカーナ」より　間奏曲　約 3 分半
プッチーニ：「ジャンニスキッキ」より　“私のお父様”　約 2 分半(ソプラノ)
「トゥーランドット」より　“誰も寝てはならぬ”(テノール)
ヴェルディ：「椿姫」より“ああ、そは彼の人か”“花から花へ”約 5 分(ソプラノ*)
“乾杯の歌”　約 4 分　(二重唱*)
(すべて演奏して、30〜40 分のプログラム)

ソプラノの歌手は二人必要です。*印の曲と、それ以外のもので分けて歌うのが望ましいそうです。

テノールはこの 3 曲であれば一人の歌手で差し支えないそうです。ただし、これ以上曲を増やす場合、曲によっては人を増やした方が良いかも…というお話でした。

いずれにしても、プッチーニのアリアはどれもオケがかなり厚く書かれているので、相当声量の豊かな歌手でないと、声がオケにかき消されてしまうだろうとのことです。

今回、鎌響 50 周年にあたり、私が曲目を考えるときに配慮したことは
○過去 10 年程度とりあげられていないもの
○なるべく失業者がでないように
○50 周年を団員、お客様ともどもお祝いするに相応しいもの
○普段なかなかとりあげづらいもの。「50 周年ならでは」と団員、お客様に納得・支持していただけるもの

左から長谷川さんＶｎ、片山さん Cl、菅井さん Vn、津金さん Tr

40 周年記念パーティーで？
右から片山さん Cl、日高さん Vn、深田さん Trb、日高さん Trb、大内さん CB、東さん Cl（KSO アーカイブ）

「鎌 響 の フ ァ ミ コ ン」に つ い て

桐　本　圭三 Vn

ファミリーコンサートを第４回から現在まで担当

鎌響の演奏会はご存知の通り、（有志による年２回の室内楽演奏会を別として）年２回の定期演奏会、鎌倉芸術館主催の「第九」などの依頼演奏会、そしてもう一つ、「ファミリーコンサート」があります。
芸術館依頼の「第九」が、毎年ではありませんが多くの年の１２月に行われるようになり、それまで１月に行われていた「ニューイヤーコンサート」開催が難しくなったため２００３年から「ファミリーコンサート」（以降「ファミコン」と称します）という名称で３月開催の演奏会が始まりました（場所が確保出来なかったため２０１１年は７月に開催されましたが）。
その名前の通り、またそれまでの「サマーコンサート」や「ニューイヤーコンサート」もプログラムには「ファミリー的な曲」が多かったのですが、「ファミコン」は特に「お客様が良く知っている、お客様に喜ばれる、団員が演奏してもおもしろい曲」をコンセプトとして選曲しております。私は２００６年の第４回ファミコンから携わっておりますが、選曲を担当しているのは毎年入れ替わる「ファミコン」実行委員会の委員たちで、この「選曲」が大変難しく、今後もこの傾向は強くなっていくと思われます。

と言いますのは「定期演奏会（以降「定期」と称します）」の選曲もそれはそれで大変だと思いますが、「ファミコン」では「定期」とバッティングしないような、なかなか「定期」では取り上げられないような曲を探すこととなり、出来るだけ「交響曲」「協奏曲」は基本的には含まないようにすることになります。となると「組曲」「序曲」「交響詩」「バレエ曲」「間奏曲」などの管弦楽曲、そして、管弦楽の伴奏つき独奏曲、歌曲、かな～
しかし「管弦楽の伴奏つき独奏曲、歌曲」は、オケとしては演奏していてあまり「おもしろくない曲」、という認識が強く、（考え方、捉え方によっては）実際にそうですが、いつも実行委員の中では検討段階で消えていく運命にあります。
その中でお客さんも良く知っている、楽しい曲、特にメインとなる「大きい曲」を探すのは・・・・・
これまでのファミコンのプログラムを第１回から来年の第１１回ファミコンまで下に並べてみましたが、選曲の苦労の跡が見られますね～

鎌響には司会者、永井邦子さんという名司会者がコンサートをうまく進行させてくれるので、演奏会本番では彼女に助けられている部分が沢山ありますが・・・・・

桐本さん　ご自身提供

これまでのファミコンの流れの中で２０１０年の第８回のファミコンから、「鎌倉交響楽団がやるファミリーコンサート」を強調して、お客様に「鎌響」の名前をより浸透させようと、集客に少しでもプラスになれば、と「鎌響のファミコン」と大きく銘打ってチラシやプログラムの表紙に使っておりますが、特に改めてアナウンスしておりませんので団員の中でも気のついている人は少ないのでは？

我々、一応神奈川県のアマオケに関係している人間から考えると、「ふじきょう」は「藤沢市民交響楽団」、「よこきょう」は「横浜交響楽団」であるとわかりますが、「かまきょう」を含めアマオケに興味のない人にとってこれは何のことか、勿論「アマチュアオーケストラ」、とはわからないのではないでしょうか？

また「日フィル」「新日本フィル」のプロオケも同様で、「フィル」と言っても普通の人にはなかなかわからないのでは、と考えられます。ただ「N 響」と言えば、音楽に興味のない人でもわかるような「NHK 交響楽団」の愛称、略称です。もちろんＮ響と同じように、なんてとんでもないことですが、そこまで、はともかく、「鎌響のファミコン」というコンサートを認知してもらい、「かまきょう」と言えば何のことかすぐわかる、鎌倉市民や近隣の人たち、神奈川県民がすぐわかるようなグループになれば、と思います。そしてもっともっと親しまれ、定期演奏会を含めコンサートでは常に１３００人以上のお客さんに入っ

てもらえるよう、聴いてもらえるようなアマオケでありたい、と団員みんなが考えているのではないでしょうか？

第１回ファミリーコンサート

２００３年３月１５日(土)

・指揮と司会　家田厚志

シャブリエ　　狂詩曲「スペイン」
ラヴェル　　　亡き王女のためのパヴァーヌ
ビゼー　　　　組曲「アルルの女」から
「カリヨン」「アダージェット」（第１組曲）
「メヌエット」「ファランドール」（第２組曲）
ガーシュウィン　「パリのアメリカ人」

第２回ファミリーコンサート

２００４年３月６日(土)

・指揮と司会：角岳史
・歌とお話：日比野　景

プロコフィエフ：交響曲第１番「古典」
シュトラウス：喜歌劇『ジプシー男爵』から序曲
シュトラウス：ワルツ「春の声」（ソプラノ独唱）
シュトラウス：喜歌劇『こうもり』から
チャルダーシュ「故郷の歌を聞けば」（ソプラノ独唱）
シュトラウス：ワルツ「美しく青きドナウ」
シュトラウス：ポルカ「雷鳴と稲妻」

第３回ファミリーコンサート

２００５年３月１２日(土)

・指揮と司会：角　岳史

角　岳史：鎌倉市歌の主題によるファンファーレ
フンパーディンク：歌劇　「ヘンゼルとグレーテル」序曲
マスカーニ歌劇：「カヴァレリア・ルスティカーナ」間奏曲
ロッシーニ：歌劇「ウィリアム・テル」序曲
ドビュッシー：牧神の午後への前奏曲
チャイコフスキー：序曲「1812 年」
ホルスト：組曲「惑星」より「木星」

第４回ファミリーコンサート

２００６年３月４日（土）

・指揮と司会　角　岳史

＜2006 年宇宙の旅＞

W.A.モーツァルト：交響曲第２９番

R・シュトラウス：ツァラトゥストラはかく語りき　導入部

シュトラウス：天体の音楽

ジョン・ウィリアムズ：「スター・ウォーズ」組曲

ドビュッシー：月の光（アンコール）

第５回ファミリーコンサート

２００７年３月４日(日)

・指揮　古谷誠一、司会　永井邦子

・テノール　水船桂太郎

ロッシーニ：歌劇「アルジェのイタリア女」序曲

プロコフィエフ：バレエ「ロミオとジュリエット」より

第一幕前奏曲（全曲版　第１曲）

少女ジュリエット（第二組曲　第２曲）

メヌエット（第一組曲　第４曲）

ジュリエットの墓の前のロメオ（第二組曲　第７曲）

モンタギュー家とキャピュレット家（第二組曲　第１曲）

シュトラウス：歌劇「ヴェネツィアの一夜」序曲

イタリア・オペラとイタリア歌曲

シュトラウス：歌劇「ヴェネツィアの一夜」

「舟歌」

ヴェルディ：歌劇「リゴレット」より「女心の歌」

プッチーニ：歌劇「トゥーランドット」より「誰も寝てはならぬ」

デ・クルティス：ナポリ民謡「帰れソレントへ」

チャイコフスキー：幻想序曲「「ロミオとジュリエット」

第６回ファミリーコンサート

２００８年３月１日（土）

・指揮　河合良一、司会　永井邦子

・ソプラノ　星野尚子

・ヴァイオリン独奏　五味俊哉
＜オーケストラが奏でる物語＞
グリーグ：劇音楽「ペール・ギュント」より
朝、山の魔王の洞窟にて、オーゼの死、アラビアの踊り、
ペール・ギュントの帰郷、ソルヴェイグの歌
リムスキー-コルサコフ：交響組曲「シェエラザード」

第７回ファミリーコンサート
２００９年３月７日(土)
・指揮　角　岳史、司会　永井邦子
オッフェンバック：喜歌劇「天国と地獄」序曲
アンダーソン特集
春が来た(The First Day of Spring)、そりすべり、ブルータンゴ、
タイプライター、シンコペイティッドクロック、プリンク・プレ
ンク・プランク、トランペット吹きの休日（ビューグルホリデー）
ベートーヴェン：交響曲 No.5 「運命」 ハ短調

鎌響のファミコン ２０１０
「第８回　ファミリーコンサート」
２０１０年３月６日(土)
・指揮　小泉智彦、司会　中里かほり
バッハ：トッカータとフーガ　ニ短調（ストコフスキー編曲）
ポンキエッリ：歌劇「ジョコンダ」より「時の踊り」
ボブ・ローデン編曲：ディズニー・マジック
チャイコフスキー：バレエ組曲「くるみ割り人形」

鎌響のファミコン ２０１１
「第９回　ファミリーコンサート」
２０１１年7月３１日(日)
・指揮　井田勝大、司会　永井邦子
交響詩特集
シベリウス作曲交響詩「フィンランディア」
ボロディン作曲交響詩「中央アジアの草原にて」
スメタナ作曲交響詩「モルダウ」
ビゼー：カルメン組曲　第一組曲、第二組曲
鎌響のファミコン ２０１２

「第１０回ファミリーコンサート」

鎌響５０周年オープニングガラコンサート

２０１２年３月３日(日)

・指揮　角 岳史、司会　永井邦子

・ピアノ　槙 和馬

エルガー：　「威風堂々」 No.1

ショパン：　ピアノ協奏曲 No.1 ホ短調

ハチャトゥリアン：　組曲「仮面舞踏会」

鎌響のファミコン ２０１３

「第１１回　ファミリーコンサート」

２０１３年３月９日(土)

・指揮　清水史広、司会　永井邦子

ロッシーニ：歌劇「どろぼうかささぎ」序曲

ラヴェル：亡き王女のためのパヴァーヌ

ボロディン：歌劇「イーゴリ公」より「ダッタン人の踊り」

ムソルグスキー、ラヴェル編曲：組曲「展覧会の絵」

ファミコンのインスタントコンダクター　右は家田先生 Cond

後ろに Vn の五味さん、八木さん、白水さん　(KSO アーカイブ)

鎌倉交響楽団の50年

50 周年記念事業委員会副委員長　水上 清

水上さん Vla　　　記念パーティー司会の始まるところ

はじめに

鎌倉交響楽団は「鎌響」の愛称で多くの皆さまのご支援に支えられつつ、今年(2012 年)創立 50 周年を迎えました。選曲や運営を団員の意思で自主的に決めていく基本的な姿勢は、すでにその当時から貫かれ、しかもそれを受け入れながら的確な指導をされる指揮者との絶妙なバランスも現在まで続く鎌響の特色といえます。この５０年を振り返り、今までの歩みをまとめてみました。

４年間の「鎌倉交響楽団」

鎌響を語る上で、まずその前史として1947年から1951年まで、プロとアマチュア混成による伝説のオーケストラ「鎌倉交響楽団」から始めなくてはなりません。戦後の混乱期にこの歴史溢れる古都鎌倉を音楽の中心地にしようと情熱に燃えた音楽関係者により1945年暮に鎌倉音楽クラブ（代表　野村光一）が結成され、この呼びかけに応じた疎開中のプロの演奏家を中心に、技術を持ったアマチュア愛好家も加わり最初の「鎌響」が誕生しました。
第1回演奏会は1947年10月5日、当時の師範学校（現横浜国立大学付属小中学校）講堂を会場に、モーツァルトのフルート協奏曲やシューベルトの「未完成」などが演奏されました（指揮 橋本国彦、フルート 森正）。活動は年4回の演奏会開催を目標に、市からの補助金も得ながら運営されていましたが、社会の落ち着きと共に、プロの演奏家は活動を徐々に東京に移し、演奏活動は僅か4年足らずの1951年3月に終了しました。短い期間でしたが、1948年には尾高尚忠作曲のフルート協奏曲が自身の指揮、森正のフルート独奏により公開初演されています。なお、この活動に献身的に当たっていた指揮者尾高尚忠はこの51年に病をえて39才という若さで早逝しています。

この「旧鎌響」に参加した主な演奏家には、尾高尚忠、前田幸市郎、斎藤秀雄、鈴木聡、平井哲三郎、当時まだ10代だった江藤俊哉、東京音楽学校（現東京芸術大学音楽学部）の学生だった矢代秋雄（寡作ながら内外で作品が演奏される日本を代表する作曲家の一人。「鎌倉市歌」は氏の作品）などの諸氏がおられました。

現「鎌倉交響楽団」の誕生（鎌倉市中央公民館時代）

「旧鎌響」の解散後は、1959年から朝日新聞社が主催する青少年を対象とした「朝日ジュニアオーケストラ鎌倉教室」（室長 福井孝一）が誕生し、東清蔵の指導で春秋2回の演奏会が行われましたが、新聞社の方針で4年後の1963年1月には活動を停止しました。これを引き継ぐ形で誕生したのが、市民アマチュア管弦楽団としての現在の鎌響です。

設立の発起人には、「旧鎌響」設立にも係わった野村光一をはじめ、福井孝一、服部甚蔵、鉄能子、山岡寿美子等の諸氏が名を連ねました。設立趣意書には、「文化都市としての本市にふさわしい高度の楽団を結成して・・・」という「旧鎌響」の精神を受け継ぎながら、新たな体制でスタートを切っています。その意気込みの強さからか、同年6月15日にはすでに第1回結成記念演奏会を開催しました。演奏会場は鎌倉市中央公民館、といっても今は取り壊されてありませんが、鎌倉市由比ガ浜2丁目の鎌倉女学院のとなりにあった、収容人員700名程度の会場でした。しかも当初は国民体育大会の施設として作られた運

動競技のための建物でしたが、大会終了後に市民の多目的な集まりに使用できるよう改造したもので、音楽を演奏する会場としてはまったく響きの悪いホールでした。

設立時のメンバー構成は朝日ジュニアから10数名、第1次鎌響から5名、そのほか鎌倉音楽クラブメンバーに指導を受けていた人たちや、大学オーケストラのＯＢ、音楽好きな市民などが集まったとされています。年齢層はかなり幅が広く、本日のステージをご覧になってもお分かりのとおり、現在の鎌響が持つ特徴がそのまま設立当初からの伝統であることを感じます。

結成記念演奏会は無事に開催したものの、その後も団員はなかなか安定せず、週1回の練習には10名も集まらないこともあったと聞いていますが、演奏会が近づくと近隣オーケストラや知人、プロの演奏家などに応援を得て、年２回の定期演奏会を続けてきました。

この間、1970年には現在の神奈川フィルハーモニー管弦楽団というプロオーケストラの前身となるロリエ管弦楽団が結成され、中核メンバーとして鎌響から技術を持った団員が参加して行ったこともありました。

また、同年には市内の私立幼稚園協会に加盟する幼稚園の園児を対象とした音楽会を依頼され、今日まで続いています。初めて見るフルオーケストラを前に、純粋に音楽と向き合う園児の目の輝きや反応は、演奏の出来を的確に表わし、今日まで私達団員にとって貴重で大切な真剣勝負の場となっています。また演奏を聞いた園児が成長し、その後入団して来るなど嬉しい効果ももたらしています。

1975年頃からは、指導者の熱意と地道な運営努力の上に、2度のオイルショックからの立ち直りや、文化的な余暇を求める社会的風潮も影響して徐々に団員数も増加し、また観客の広がりも見られるようになって来ました。

その1975年からは市教育委員会の依頼で市内小学校体育館を会場に、巡回サマーコンサートが開始されました。夏休み中の土日の夜に２日間、学童やご家族を前に演奏する機会を持つことが出来ました。冷房などない体育館で汗びっしょりになり演奏することから、オリジナルＴシャツを作ったのもこの頃でした。竪琴とＫＳＯを組み合わせたデザイン、猫、そしてヨットなどの図柄をプリントして作られました。この巡回演奏会は現在行っていませんが、家族みんなで楽しめる音楽会を目標に、1981年からニューイヤーコンサート、そして2003年からはファミリーコンサート(「鎌響のファミコン」)として、定期演奏会と共に大切な演奏活動の柱となって現在まで受け継がれています。

この頃の主な演奏活動としては、1980年日本アマチュアフェスティバルに参加し東京日比谷の日生劇場でブラームスの第4交響曲を演奏、1982年創立20周年第40回定期演奏会では念願の「第九」を演奏し、オーケストラの意気も上がり、

実働団員は80名を超えて響きも充実してきました。以降ブルックナーの交響曲第４番（1986年）やマーラーの交響曲１番「巨人」（1988年）などの大曲もプログラムに登場するようになりました。また、1987年には東京駅北口ドームで開催された「駅コン」に出演し、モーツァルトの「フルートとハープの協奏曲」ほかを演奏するなど、地元での演奏以外の活動も含め大きな盛り上がりを見せています。これらは創設期から基本的なオーケストラの体制を築いてきた前田幸市郎、そして基礎の上に更に充実した近代楽曲を演奏しうる技術と、レパートリーを広げて行った後任の古谷誠一の各氏が、それぞれ情熱溢れる充実した練習を積み重ね、築き上げてきたものと考えています。

鎌倉芸術館時代へ(1993年～現在)

鎌倉市大船に鎌倉芸術館が落成し、待望久しかった本格的な音響設備と1,500人を収容できるホールでの演奏が可能となったことで、鎌響も新たな演奏活動の場へと移動することになりました。
1993年11月杮落としの演奏会は、念願であった「100名の団員で第九を」という目標を、満員のお客様をお迎えして、実現することが出来ました。実際には、チケット販売枚数の手違いから入場者数がオーバーして、席の確保に奔走するなどの混乱と熱気に包まれた演奏会になりました。
広いステージと豊かな響きを誇る鎌倉芸術館で演奏会を行うようになってからは、ニューイヤーコンサートで長畑バレー団と協演（1998年「くるみ割り人形」）、バレー団の公演に依頼を受けオーケストラピットで演奏（1998年「ライモンダ」ほか）、またブルックナー交響曲第9番やストラヴィンスキー「火の鳥」（2000年）、オルフ「カルミナ・ブラーナ」（2007年）、マーラー 交響曲第5番（2008年）、そして今回のマーラー 交響曲第2番「復活」（2012年）など、規模の大きな、また舞台機構を使い変化に富んだ演奏が可能となり、更に演奏に磨きをかけることが出来る環境の中で充実した活動を展開しています。
今回第100回定期演奏会でマーラー交響曲第2番「復活」の演奏に当たっては、当初40周年の時にも演奏希望が出ましたが、団員が不足しており応援を頼んだ演奏はすべきでないという理由で別の曲になりました。しかし10年後の50周年では特殊楽器を除くほぼ全員が鎌響団員で演奏が出来る態勢が整いました。
現在は120名を超える団員数を擁しており、20世紀の主要な作品も演奏できるよう努力を重ねています。
「第九」の演奏も最近は毎年鎌倉芸術館が主催する「日本語で歌う第九演奏会」に参加させていただき、また1999年を最初としてすでに3回姉妹都市萩を訪問し、萩市民の合唱と鎌響が合同演奏を行うなど、活動が益々多様化しています。

鎌倉芸術館に演奏会場を移すに当たり、1,500 人も収容できるホールを果たして一杯に出来るか不安を抱いていた団員も、毎回席を埋め尽くすお客様に対する感謝の気持ちと、それに応える演奏を真剣に思いながら、今日もステージに向かっています。
こうした恵まれた環境の中で演奏できる鎌響の育成に献身的なご尽力をいただいた演奏面では前田幸市郎、高橋誠也、吉水洋、古谷誠一、宮松重紀等の諸先生、運営面では創設期からの福井孝一、服部甚蔵、伊澤龍作、日比谷平一郎ほかの諸氏に深く感謝を申し上げます。

100 年に向けて

50 年の歩みの中で徐々に作られてきた独特の鎌響サウンドは、いまも 20 歳から 70 歳半ばまでの様々な考え方や価値観を持った人たちが集い、年齢差半世紀の差をものともせず、鎌倉という長い歴史の空気を通して豊かに醸成されてきたものであり、この響きを更に充実させてこれからの５０年で磨き上げて行かなくてはなりません。「鎌倉」を常に心に留めて、練習に励み、真剣に演奏に向かう姿勢を忘れずに活動して行きたいものです。オペラの公演や、過去に挑戦して果たせなかった、姉妹都市ニースへの演奏旅行も夢としてこれから先の目標にしていきたいと思います。

ただ、素晴らしい響きの演奏会場はあるものの、120 名を超える団員が毎週練習を重ねていくための広さと防音設備を持った練習場や、現在ワンボックスカーに積んで保管している大型楽器や特殊楽器を熱や湿気から守り安心して保管できる倉庫の確保、そして大切な楽譜を安定的に整理･保管できる場所の確保など、行政への要請も含めて具体的な進展を願わずにはいられません。

次はある日の室内楽演奏会　97 年 8 月 23 日
ソロ日比谷さん Vla、左から五味さん Vn、松野美智子さん Vn、松野義明さん Cell など　 (KSO アーアカイブ)

年二回の鎌響室内楽演奏会は近年レベルの向上と共に、多くの鎌響ファンを引きつけています。

懇親会司会者宮崎さんHrn　と　KSO５０の委員たち
左から宮崎、大内Bas、水上Vla、長谷川Vn、片山Cl、菅井Vn、津金Tr、府川Trb、高橋Fl、中村Vla

ファミリーコンサートと 100 回定期についてのアンケート

小川　穣　Vn　アンケートとKSO50 の展示を担当

いずれのコンサートでも鎌倉藤沢からの聴衆が多いのですが、残りの８割近くは湘南、あるいは広く関東地方の方々で、鎌響が鎌倉から発して広くメッセージを伝えており、今後の活動を示唆しているように思われます。

ファミリーコンサート　アンケート

回答者の属性（男女、年代、地域別集計）

■性別

	人数	割合
男性	117	39.9%
女性	112	38.2%
不明	64	21.8%
合計	293	

■年代

	人数	割合
16 才未満	9	3.1%
16～19 才	0	0.0%
20 才代	4	1.4%
30 才代	7	2.4%
40 才代	16	5.5%
50 才代	16	5.5%
60 才代	54	18.4%
70 才以上	88	30.0%
不明	99	33.8%
合計	293	

■居住地

	人数	割合
鎌倉	43	14.7%
藤沢	24	8.2%
逗子	3	1.0%
戸塚	10	3.4%
栄	19	6.5%
泉	5	1.7%
金沢	5	1.7%
横浜市	39	13.3%
川崎市	2	0.7%
横須賀三浦地域	14	4.8%
県央地域	4	1.4%
湘南地域	8	2.7%
足柄上地域	2	0.7%
西湘地域	1	0.3%
東京都	6	2.0%
不明	103	35.2%
合計	288	

第 100 回定期アンケート

回答者の属性（男女、年代、地域別集計）

■性別

	人数	割合
男性	92	48.2%
女性	69	36.1%
不明	30	15.7%

合計	191	

■年代

	人数	割合
16 才未満	3	1.6%
16～19 才	1	0.5%
20 才代	3	1.6%
30 才代	3	1.6%
40 才代	10	5.2%
50 才代	7	3.7%
60 才代	35	18.3%
70 才以上	74	38.7%
不明	55	28.8%
合計	191	

■居住地

	人数	割合
鎌倉	40	20.9%
藤沢	11	5.8%
逗子	3	1.6%
戸塚	13	6.8%
栄	8	4.2%
泉	6	3.1%
金沢	2	1.0%
横浜市	21	11.0%
川崎市	1	0.5%
横須賀三浦地域	9	4.7%
県央地域	5	2.6%
湘南地域	0	0.0%
足柄上地域	1	0.5%
西湘地域	2	1.0%
東京都	9	4.7%
不明	60	31.4%
合計	191	